

中学生まぢづくり議会

次世代を担う中学生に、市政への関心を深めてもらうことを目的に実施している「中学生まぢづくり議会」が2月4日に開催されました。

市内の中学校5校から各3名の代表者が中学生議員となり、緊張しながらも堂々と、市政に対する質問や提案を述べました。ここでは、中学生議員から出された質問や答弁の概要と議員提出議案の内容をご紹介します。

本庄西中学校
奥野 未梨 議員



生徒全員へのタブレット導入について/避難所となる体育館などへのエアコンの設置について

質問：本庄西中学校には、20台のタブレットが導入されていますが、生徒一人に一台導入していただけないでしょうか。また、今年度は、台風の影響で市内小中学校の体育館が避難所になりました。大地震の際も避難所になると思いますが、エアコンを完備できないでしょうか。

答弁：大規模なタブレット整備には、予算や通信環境整備などの課題がありますが、国の策定した「教育におけるICT環境整備方針」に基づいて、学習環境の充実を図っていきたく考えています。次に、体育館へのエアコン設置については、すぐに設置することは難しいと考えています。今後、体育館を避難所として開設する時には、県がスポットエアコンを借りられるようにしてくれましたので、活用してみたいと考えています。

本庄南中学校
布施 琴羽 議員



災害時の対応について

質問：異常気象で、自然災害が多くなっていますが、災害時、市がどのように市民に情報伝達するのか、避難所にはどの程度の水・食料・生活用品があるのか伺います。また、避難所で私たち中学生にできることはありますか。

答弁：災害時の情報発信の手段としては、防災行政無線や市ホームページ、メール配信等や聴覚障害者へのファックスによる情報発信などがあります。避難所の備蓄品は、避難者数1万5千人を想定し準備しています。また、長期間の避難も想定されますので、企業・事業者や他市と防災協定を結び、物資等の提供が受けられるようにしています。避難所で中学生にできることは高齢者等の荷物運びなど色々ありますが、その気持ちを大事にし、これからの社会に役立つことを探して欲しいと思います。

本庄第一中学校
齊藤 真凜 議員



東京オリンピック・パラリンピックに向けての福祉活動について

質問：パラリンピックに向け学校で福祉体験をすることで障害者への理解等が深まると思いますので、学校で福祉体験を実施していただくがでしょうか。また、外国人観光客のために公共施設の看板はどのように工夫されていますか。最後に、障害者へのバリアフリーはどのようになっていますか。

答弁：現在、公立小中学校では総合学習で「車いす体験」や「アイマスク着用での歩行体験」などを取り入れており、今後も、新たに取り入れられるものが無いか検討していきます。次に、外国人のための看板についてですが、英語による表記も追加したりピクトグラムを活用するなどの工夫を行っています。最後に、バリアフリー対応ですが、公共施設での段差解消等や広報紙の内容を読み上げたCD及び点字化などを行っています。

児玉中学校
中野 廉太郎 議員



部活動の取り組みについて

質問：部活動の時間が以前よりも短くなっているため、活動の質を高めるための工夫をしています。そこで、部活動の質を高める方法として、各競技の元プロ選手などを招き、中学生向けにスポーツ教室などができないでしょうか。また、そのような活動が行われていたら、どのようなものでしょうか。

答弁：市では、シルクドームなどを管理している指定管理者と連携して、プロ野球イースタンリーグの開催やプロ選手による野球教室などを開催しています。指定管理者が行う事業としては、オリンピック出場選手や有名選手を招いての教室が開催されていますが、小学生向けとなっています。今後、中学生向けの教室や一流選手のプレーを間近で体験できるような機会を提供できるよう、指定管理者と連携して頑張りたいと思います。

本庄東中学校
今井 桜乃 議員



中山道の活性化について

質問：本庄駅南口周辺は、明るい街並みが広がっている一方、北口周辺は閑散としています。しかし、北口側には中山道が通り、この中山道を活性化させることで、本市のPRになると考えました。そこで、活性化のためにどのようなことをしていますか。また、観光客が増加した場合、駅北口地区の整備を進めることは可能でしょうか。

答弁：中山道について市ホームページや観光協会発行の「観光ガイド」での紹介、中山道本庄宿について学べるプログラムの実施、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫の活用などを通してPRをしています。併せて、電線類を地中化する事業も進めています。また、駅北口周辺を対象とした「本庄駅北口周辺整備基本計画」の検討を進めており、来年度の策定を目指しています。

議員提出議案

1年間の全中学校での取り組みを提案



児玉中学校
片山 桃花 議員

みんなで取り組む福祉活動 ～ONE TEAMを目指して～

昨年10月に発生した台風19号をはじめ、日本ではさまざまな自然災害が猛威をふるい、そのたびに、各地に甚大な被害をもたらしています。そんな中、私の目に飛び込んできたのが、被災地を支援するボランティアの方々です。東日本大震災や九州豪雨など、まだ記憶に新しい災害でもボランティアの方々が話題にあがっていました。また、「スーパーボランティア」としてさまざまな場所で活躍している尾島さんにも注目があつまりました。

これらのことをきっかけに、私にも何かできることはないかと思い、福祉活動について考えることにしました。児玉中学校では、福祉活動の一環として、ベルマーク、ペットボトルキャップの回収を行っています。ベルマークは、教育活動の援助に、ペットボトルキャップはワクチンになります。赤い羽根、緑の羽根募金では、学校で集めるのに加え、生徒会本部役員と福祉委員が、近所のお店や祭りでの街頭募金も行っています。夏休みを利用しての保育ボランティアにも参加する生徒もいます。現地に行くことができないか、誰かの助けになることがいっぱいあると思います。

そこで、次のような活動を提案します。「福祉に対する正しい理解を身に付け、各学校の実態に合わせて福祉活動に全校生徒で取り組むこと」です。

この活動を、本庄市の全中学生で行っていくことで、福祉に対する興味や、活動自体が広がり、協力が必要不可欠な現代社会を力強く生きていくきっかけになると思います。

表紙写真 参加生徒（敬省略）

上段左から【本庄南中】諏訪瑞保・野枝佑吏・布施琴羽【本庄西中】高橋愛華・福島直太郎・奥野未梨【本庄第一中】齊藤真凜・倉谷聡馬・新井瑠美奈

下段左から【本庄東中】今井桜乃・原田庸佑・小暮由愛【児玉中】中野廉太郎・根岸大樹・片山桃花